

大玉村教育委員会の権限に属する事務の
管理及び執行状況の点検及び評価について
(令和5年度事業分)

大玉村教育委員会

I 点検及び評価の概要

1	はじめに	3
2	点検及び評価の対象	3
3	点検及び評価の方法	3
4	学識経験者の知見の活用	5
5	議会への報告等	5
6	参考資料	6

II 教育委員会会議の開催状況、研修・学校行事等への参加状況

1	教育委員会の構成	8
2	教育委員会会議の開催状況	8
3	教育委員会会議以外の活動状況	9
4	教育委員会の取組みに対する学識経験者の意見	10

III 「大玉村の教育」に掲げられた施策及び施策を構成する事業に関する
点検及び評価の結果

1	大玉村が目指す教育（教育目標）	11
2	各施策の取り組み状況（令和5年度重点施策）	11
	（1）人・自然・地域とつながり、互いに響き合い、高め合う「響育」	
	（2）子どもも大人も、学び合い、育ち合う「共育」	
	（3）心身共に健康で、たくましく、未来を切り拓く「強育」	
	（4）ふるさとを大切にし、伝統や文化を継承し、さらに新しい文化を創る「郷育」	
3	各課（係）の取組みに対する学識経験者の意見	12
	（1）組織運営	
	（2）教育総務課	
	（3）生涯学習課	

IV 大玉村教育事務点検評価委員会による総括評価

別冊	点検評価シート	15
----	---------	----

I 点検及び評価の概要

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することとされております。

大玉村教育委員会では、同法の規定及び大玉村教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する要綱に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検評価を実施するものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の対象

(1) 教育委員会会議の開催状況

○ 開催した定例・臨時教育委員会の開催日及び主な議題

(2) 教育委員の研修・行事等への参加状況

○ 研修会、学校訪問、諸行事への参加状況

(3) 「大玉村の教育」（令和5年度版）に掲げられた施策及び構成する事業

○ 令和5年度主要施策のうち、教育委員会重点施策に位置付けた事業

3 点検及び評価の方法

点検評価に当たっては、教育委員会の開催状況やその内容、研修会・行事等への参加状況等について、大玉村教育事務点検評価検証委員会の点検・ヒアリングを受けます。

「大玉村の教育」（令和5年度版）に掲げられた施策及び構成する事業については、次の判断基準に基づいた自己評価を行い、大玉村教育事務点検評価検証委員会の点検・ヒアリングを受けます。

□自己評価の方法

○ 事務事業点検評価シートの作成

・ 令和5年度主要施策のうち、教育委員会重点施策に位置付けた事業について、事業概要、実施月毎の事業経過・達成状況を記入する。事業経過・達成状況については、事業内容や事実のみの記載ではなく、その時

点での課題や改善点、感想等を記入する。

- ・事業全体を通しての《評価する点》、《改善点（改善策）》を記入する。
- ・各事業について次の事項の自己評価を行う。

〈自己評価判断基準〉

区 分	内 容
達成状況	A：十分達成
	B：概ね達成
	C：やや不十分
	D：不十分
年度末の 展開度	A：大きく展開
	B：概ね展開
	C：一部だけに展開
	D：展開されていない

- ・達成状況、年度末の展開度の評価に当たっては、以下の内容を視点として加味し、判断すること。

区 分	内 容
必要性	実施事業にニーズはあるか 事業実施後のニーズに変化があるか
効率性	効率的に実施できたか 効率性を高める余地はあるか
公平性	事業の効果は公平に配分されたか 公平性を見直す余地はあるか

- ・以下の区分による今後の事業展開の方向性について記入する。

区 分	内 容
方向性	拡充・発展 成果が上がっている事項や良い点を踏まえ、今後さらに事業の拡充・発展を図っていく。
	継続 事業実施方法等について改善を図りながら、継続して実施する。
	見直し 成果の上がない事項についてその要因を明らかにし、事業全体について見直しを行う。
	終了 目的を達成し、継続が不要な事業について終了する。
	廃止 成果が見込めない事業について廃止する。

4 学識経験者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定により、評価の客観性を確保するとともにその知見を活用するため、大玉村教育事務点検評価検証委員会を設置し、委員の点検・ヒアリングを受け、意見をいただきます。

<令和5年度 大玉村教育事務点検評価検証委員>

- | | |
|---------------------------|--------|
| ○ 大堀 満 (株式会社ミンナノチカラ代表取締役) | 第三者評価者 |
| ○ 高野孝男 (福島大学人間発達文化学類特任教授) | 第三者評価者 |
| ○ 坂本篤史 (福島大学人間発達文化学類准教授) | 第三者評価者 |

<開催状況>

令和6年2月20日(火) 8:30~17:00

- 委員の委嘱・委員長選出
- 委員打合せ
- 定例教育委員会傍聴
- 教育委員へのヒアリング
- 教育長・教育部長へのヒアリング
- 教育委員会事務局へのヒアリング
- 点検及び評価に対する意見の取りまとめ
- フィードバック

5 議会への報告等

点検及び評価の結果を報告書にまとめ、村議会に報告するとともに、村民に対して公表します。

(1) 議会への報告

毎年9月までに村議会議長宛に報告書を提出します。

(2) 村民への公表

議会への報告後に、村のホームページに掲載します。

6 参考資料

大玉村教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 点検及び評価の対象は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 「大玉村の教育」に掲げられた施策及び施策を構成する事業
- (2) その他教育委員会が必要とするもの

(点検及び評価の時期)

第3条 点検及び評価は、2月末の段階で実施し、3月分については、見込みで評価する。

(点検及び評価の主体)

第4条 点検及び評価の対象となる施策等を担当する所属長は、当該施策を企画・立案し、遂行する立場から、評価対象の施策等について自ら点検評価を行うものとする。

(検証委員会の設置)

第5条 教育委員会は、点検及び評価について、客観性及び公平性を確保するため、大玉村教育事務点検評価検証委員会（以下「検証委員会」という。）を設置する。

2 教育委員会は、点検及び評価の結果について、検証委員会より意見を聴取する。

(検証委員会の組織)

第6条 検証委員会は、委員5名以内で組織する。

2 検証委員会の委員は、教育に関し識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

3 委員の任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。

4 検証委員会に委員長及び副委員長1名を置き、委員の互選によってこれを定める。

5 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

6 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(守秘義務)

第7条 検証委員会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(村議会への報告等)

第8条 点検及び評価の結果は、毎年9月までに村議会に報告するものとする。

2 前項の報告後、点検及び評価の結果を村民に公表するものとする。

(庶務)

第9条 検証委員会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(補足)

第10条 この要綱に定めるものの他、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、平成22年11月14日から施行する。

附 則

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

II 教育委員会会議の開催状況、研修・学校行事等への参加状況

1 教育委員会の構成

(令和6年1月31日現在)

No.	氏名	職業	委員歴・役職歴
1	渡辺 敏弘	教育長	令和4年4月1日～1期目 教育長
2	齋藤 雄一郎	会社役員	平成23年1月1日～4期目 保護者 平成25年10月1日～委員長職務代理者 平成28年4月3日～委員 令和4年12月21日～教育長職務代理者
3	須藤 綾子	会社員	平成25年10月1日～3期目 委員 保護者
4	高島 由美子	主婦	平成27年7月1日～3期目 委員
5	三村 浩史	住職	令和4年12月21日～1期目 委員 保護者

2 教育委員会会議（定例会・臨時会）の開催状況

	開催月日	主な議題
定例	4月20日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理報告等について ・大玉村教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について（令和4年度事業分） ・令和5年度教育委員会重点事務事業について ・大玉村公立学校における学校運営協議会委員の任命について ・大玉村学校関係者評価委員の委嘱について ・大玉村文化財保護審議委員の委嘱について ・大玉村文化財調査委員の委嘱について ・令和5年度大玉村二十歳を祝う会の開催について
定例	5月18日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理報告等について ・大玉村立中学校部活動指導員の任用について ・大玉村指定有形文化財の指定について ・福島県市町村教育委員会連絡協議会定期総会資料について
定例	6月22日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理報告等について ・令和5年度要保護・準要保護児童生徒認定について
定例	7月25日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理報告等について ・大玉村教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価の議会報告について ・令和6年度使用小学校教科用図書採択について ・令和6年度使用中学校教科用図書採択について
定例	8月24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務処理報告等について ・令和5年度教育委員視察研修について

	開催月日	主 な 議 題
定例	9月26日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務処理報告等について ・ 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について
定例	10月20日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務処理報告等について ・ 令和5年度ふくしま学力調査の結果について
定例	11月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務処理報告等について
定例	12月19日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務処理報告等について ・ 令和5年度要保護・準要保護児童生徒認定について
定例	1月18日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務処理報告等について
定例	2月20日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務処理報告等について ・ 令和6年度教育委員会関係予算について ・ 令和6年度大玉村幼稚園、学校教育指導の重点について ・ 幼稚園保護者意識調査結果について ・ 文部科学大臣表彰について

3 教育委員会会議以外の活動状況

(1) 研修関係

○ コミュニティ・スクール関係

- ・ 第1回コミュニティ・スクール委員会 (R5. 5. 10)
- ・ 第2回コミュニティ・スクール委員会 (R5. 6. 14)
- ・ 第3回コミュニティ・スクール委員会 (R5. 7. 5)
- ・ 第4回コミュニティ・スクール委員会 (R5. 9. 19)
- ・ 第5回コミュニティ・スクール委員会 (R5. 10. 4)
- ・ 第6回コミュニティ・スクール委員会 (R5. 11. 17)
- ・ 第7回コミュニティ・スクール委員会 (R5. 12. 12)
- ・ 第8回コミュニティ・スクール委員会 (R6. 1. 11)
- ・ 第5回コミュニティ広場(第15回大玉村教育フォーラム) (R6. 2. 17)

○ 研修会

- ・ 県市町村教育委員会連絡協議会教育委員・教育長研修会 (R5. 8. 24)
- ・ 県市町村教育委員会連絡協議会県北ブロック研修会 (R5. 10. 19)
- ・ 視察研修 (R5. 12. 21～12. 22)

(2) 学校訪問

- 玉井小学校・幼稚園 オープンスクール (R5. 6. 14)
- 大玉中学校 オープンスクール (R5. 9. 19)
- 大山小学校・幼稚園 オープンスクール (R5. 11. 17)

(3) 諸行事への参加

- 教職員着任式 (R5. 4. 3)
- 南達方部小学校交歓陸上競技大会 (R5. 5. 24)
- 広島派遣事業結団式 (R5. 7. 25)
- 大玉村小学生水泳大会 (R5. 7. 26)
- 広島派遣事業報告会 (R5. 9. 26)
- おおたまオータム・フェスタ (R5. 9. 30)
- 大玉村文化祭表彰式・閉会式 (R5. 10. 31)
- あだたら健康マラソン大会 (R5. 11. 5)
- ふくしま駅伝大玉村チーム結団式 (R5. 11. 6)
- ふくしま駅伝大玉村チーム解団式 (R5. 11. 19)
- 令和4年度大玉村二十歳を祝う会 (R6. 1. 7)
- おおたまコミュニティ広場 (R6. 2. 17)

4 教育委員会の取組みに対する学識経験者の意見

定例会での事務局の丁寧な事業説明や各委員が積極的に質問や意見を述べている様子から、地域との一体的な取組を目指す「おおたまの教育」の一部を拝見させていただいた。また、各委員がそれぞれの立場で意見が言える教育委員会との関係性の観点からも、「おおたまの教育」の盤石な基盤が出来上がっていると感じられる。さらに、組織の安定と充実を図っていくためには、現状維持という視点ではなく、「大玉っ子」を主語に据えて異なった角度の意見や考えを柔軟に受け入れる話し合いができる組織であることが求められる。それ故、各委員がこれまで以上に地域・保護者の代表としての自覚や責任を再確認し、多くのタイムリーな情報収集に心がけ、みんなで子どもを育てる「おおたまの教育」の今後の展望を見据えた羅針盤となる組織であることを期待したい。

Ⅲ 「大玉村の教育」に掲げられた施策及び施策を構成する事業に関する点検及び評価の結果

1 大玉村が目指す教育（教育目標）

「夢を育てる教育」 おおたまに学び、世界とつながる人間の育成

小さいというスケールメリットを生かし、村民一人一人がつながり、共に支え合い、学び合って、夢や生きがいのもてる豊かな人生を送ることができるよう、学校・家庭・地域が協働していくこと（「みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ」）が大切です。教育を担うのは学校だけではありません。家庭での教育、地域社会での教育がそろってこそ、共に支え合い、自尊心をもった人、多様な個性を生かし、未来を切り拓く力をもった人、あきらめない強い心と健康な体をもった人、共生の心をもった人、社会性・市民性をもった人といった人間像が具体化されるものと考えています。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を核として子どもたちに豊かな学びの場と機会を提供し、大きな夢と世界につながる豊かな人間性や社会性及び思考力・判断力・表現力を育てましょう。さらに、学校を核とした地域づくり（「スクール・コミュニティ」）を推進し、子どもも大人も学び合い、育ち合う、「共に学び合う」関係をつくっていきましょう。

2 各施策の取組み状況（令和5年度重点施策）

（1）幼・小・中が一貫した教育の推進「響育」

幼・小・中一貫的教育推進事業

幼稚園教育の充実

学力向上推進事業

I C T活用推進事業

学校給食費補助事業

（2）地域ぐるみの学びのむらづくり「共育」

コミュニティ・スクール推進事業

地域学校協働活動事業

読書活動推進事業

（3）子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり「強育」

健康教育・保健事業の充実と食育の推進

社会体育関係団体支援事業

ふくしま駅伝大玉村実行委員会事業

（4）ふるさと文化の振興「郷育」

文化財保護事業

あだたらふるさとホール運営事業

3 各課（係）の取組みに対する学識経験者の意見

(1) 組織運営

コロナ禍で事業が縮小・休止していたものを、改めて実施する際に、複数の目的やターゲット、関わる人を組み合わせて実施することで、組織をまたいだ活動が多くなったと拝見いたしました。現在では、多くの課題が複合的であり、少子高齢化、担い手不足がある中で、今までと同じように実施することが難しい状態において、非常に良い取り組みだと思われる。係や課をまたぐということは、自分の領域だけでは仕事ができないので、他の人の仕事を知ったり、関わりを持ったことのない人と仕事をするすることで、視野や視点が広くもなり、有効な取り組みだと言える。

現在の組織の状態は、一貫性も高く、広く展開され、良い状態と言える。また、課題に対しても、意欲的に取り組み、成果を上げている。問題とは、複数の意見を持っており、理想と現実のギャップの設定型や目の前のマイナスの現象に対応する発生型が挙げられる。本取り組みが始まった当初は、大きな課題設定を自ら行ってきていたが、ここ数年はコロナや人手不足など外的環境からくる発生型の問題への取り組みが多くなってきており、自ら設定した目標に対する課題が減少してきたように思われる。そこで、更なる問題解決力を高めていくために、自らあるべき姿、理想の姿を大きく設定すると、今まで問題や課題でなかったことが、問題になり、取り組むべきことが明らかになる。そして、「事務事業点検評価シート」の各取り組みに対しても、理想の状態を明確にすることで、見えなかった課題や解決のための取り組みが現れてくると思う。

なお、「事務事業点検評価シート」の各取り組みに対してまでも、目標設定することを提言させていただくのは、貴組織の成熟度が高いため、次のステップアップの取り組みも高くなっているためであります。そのため、現在の目標設定が適切ではない、取り組みの成果が出ていないということではなく、高い組織状態であるからこそ、次のステップの取り組み要求も高くなっていることである。非常に高度な提言内容となっているが、貴組織であれば、理想の姿や目標を設定することで新たな問題が発生すると思われるが、チャレンジな取り組みにより、さらなる目標を達成できると考え、期待している。

(2) 教育総務課

コロナ禍が明け、コロナ禍前の教育活動のイメージと現在の置かれている状況をしっかりと押さえ、「充実」や「創造性」の観点から着実に教育施策や事業を展開してきたことが伺える。また、事務局とのヒアリングを通して、限られたマンパワーで多くの業務を遂行しなければならない状況の中で、前年度と同じ安定感のある組織という強みを生かして、教育総務課が一丸となり大玉の教育の推進のために、学校現場の実情や背景を理解し、良き「伴奏者」として支援してきたことが理解できる。

事業点検評価シート内容の評価においても、担当者自身が事業の意義を理解して、達成規準の具現に向け、昨年度の反省を生かし、具体的なイメージを持って

「当たり前」の感覚で取り組んでいる姿勢は大いに評価できる。例えば、「オープンスクール」での授業改善における視点の明確化と共有、「外国語教育研修」「デジタル・シティズンシップ研修会」等の積極的な取組は、幼・小・中一貫を目指す「おおたま学園」の課題解決へ向けた「本質」を押さえたものである。他にも、幼稚園教育の充実、幼小交流の充実、就学支援事業・給食費補助事業等、昨年度の展開度を上回る確実な「響育」の取組がなされている。

一方で課題として挙げられている「学力向上」については、授業改善における授業の質の向上が大前提ではあるが、ICTの効果的な活用の方策や家庭学習との連携の仕方、学習基盤となる非認知能力の育成等、幼・小・中がベクトルを揃えて教育効果を高める取組について、議論を深めていくことも必要ではないかと考える。

安定した組織であるからこそ、本質を再確認する姿勢を大切にして今年度の取組の反省と課題を深掘りし、チョイ足しをすることで、次年度以降の「充実」や「創造性」のある力強い事業として展開されていくものと考えている。今後ますますの発展を期待したい。

(3) 生涯学習課

生涯学習の方々が、様々な逆境を乗り越えながら、多岐にわたる取り組みを点検シートにより相互の情報共有と連携を深め、村民全員が学びや育ちを支えることを目指すご努力は大変意義のあるものと考えている。文化財については、馬場桜の指定解除という逆境の中でも、発掘調査では長い年月の見通しをもち、資料の整理を通して村の宝をより良い形で展示するための努力を重ねている。子ども司書養成講座においても、本年度の課題を丁寧に捉え、今後の改善に向けた計画を検討している。家庭教育支援としてコロナ以降の保護者のつながりの回復を目指して「お休みスペース」の取り組みや、保護者が困ったときの窓口として「たまチャンネル」を開設している。本年度のマラソン大会の参加者数の課題から学校と連携して開催時期を見直すことや、資材高騰の中での公民館や体育館の施設補修の計画立案を目指している。

その中でも部活動の地域移行については、クラブチームの動きを見極めつつ、学校と連携しながら具体的に進める意欲を感じた。村民のスポーツ意識を高めるという目的意識を持ち、一方でじっくりと着実に進めていくことは重要なことだと考える。

IV 大玉村教育事務点検評価委員会による総括評価

令和5年度は、新しい「大玉村総合教育基本計画」の2年目に当たり、コロナが5類移行したことで、日常が戻った環境となり、休止・縮小されていたのが、フルサイズでできるようになったと言える。一方で、コロナ禍で参画する機会を失ったり、組織内の経験が消失してしまい、運営の難しさを感じたりした年でもあったと思われる。1年前と比較して、取り組みが深化し、評価シートからも姿が見えるような振り返り、改善が行えている姿を見ることができた。これまでの取り組みは、とても大変であったと思われるが、素晴らしい状態にあると推察できる。

検証委員会では、組織の成熟度モデルを参照にしながら、問題解決力・一貫性・展開度の視点から評価を行ってきた。大玉村では、「4つのきょういく」構想をビジョンに、どのような子供を育てているのか、どのような地域にしていくのかを明確にし、おおたま学園による幼・小・中連接事業、コミュニティスクール、学校支援地域本部を中核として経営を行っている。この点において、一貫性と展開度においては、他地域のモデルとなるレベルに到達していると評価している。展開度と一貫性が高いということは、目指している姿に対して、行政・教育委員会や学校に留まらず、保護者、地域にまで展開され、浸透しつつあると言える。この点が高いことによって、マイナスの効果が起きた際でも、組織がぶれずに、活動を行えることに繋がり、ヒアリングにおいても、一貫性の高さを拝聴することができ、素晴らしい状態にあると言える。この先の展開は、大変で困難ではあるが、保護者・地域や関係する団体などに広げていき、更なる一体的な共同体となっていくことを期待する。

令和5年度事務事業総括表

基本目標	「夢を育てる教育」おおたまに学び、世界とつながる人間の育成 ～ みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ 大玉の教育 ～
施策目標	<ul style="list-style-type: none"> ○幼・小・中が一貫した教育の推進響育 ○地域ぐるみの学びのむらづくり共育 ○子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツの村づくり強育 ○ふるさと文化の振興郷育
年度施策	<ul style="list-style-type: none"> ○幼・小・中が一貫した教育の推進響育 <ul style="list-style-type: none"> ①幼・小・中一貫的教育推進事業 ②幼稚園教育の充実 ③学力向上推進事業 ④ICT活用推進事業 ⑤学校給食費補助事業 ○地域ぐるみの学びのむらづくり共育 <ul style="list-style-type: none"> ①コミュニティ・スクール推進事業 ②地域学校協働活動事業 ③読書活動推進事業 ○子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり強育 <ul style="list-style-type: none"> ①健康教育・保健事業の充実と食育の推進 ②社会体育関係団体支援事業 ③ふくしま駅伝大玉村実行委員会事業 ○ふるさと文化の振興郷育 <ul style="list-style-type: none"> ①文化財保護事業 ②あだたらふるさとホール運営事業
評価	<p>《評価する点》</p> <p>○上記13項目の事業についての点検評価の結果は、「達成状況」では「A:十分達成」が7項目、「B:概ね達成」が5項目、「C:やや不十分」が1項目であった。「年度末の展開度」では「A:大きく展開」が6項目、「B:概ね展開」が7項目、「C:一部だけに展開」は0項目であった。方向性については、「継続」が10項目、「拡充・発展」が3項目であった。</p> <p>○本年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に分類されたことにより、通常の事業に戻しての展開を図っていったが、新型コロナウイルスの影響で3年間の自粛規制のためか、なかなか人が集まらず、やむを得ず中止とした事業もあったが、評価については「A:十分達成」、「A:大きく展開」、「B:概ね達成」、「B:概ね展開」ともに増加し、一定の成果は果たされたものと考えられる。</p> <p>○おおたま学園における幼・小・中一貫的教育の推進にあたっては、GIGAスクール事業において重視されている「デジタル・シティズンシップ研修会・授業公開」や外国語教育の充実に向け、小中学校教員が集まり「大玉村外国語教育研修会」を計画するなど、おおたま学園の課題解決に向けた取組が積極的に実施された。</p> <p>○オープンスクールにおいて「ねらいを明確にした単元構想・授業構想」「発問の工夫」「必然性のある話し合い活動」「教師のコーディネート」「まとめと振り返りの工夫」を意識した授業が展開できるように連携を図りながら実践できた。特に「まとめと振り返り」の時間をしっかりと確保し、深い学びになるよう手立てが工夫されていて、指導を受けたことを教頭・副園長連絡会等で共有化を図り、授業改善の視点を明確に示すことができた。</p> <p>○幼稚園教育の充実では、これまで重視してきた3つの視点「直接的・間接的交流の工夫」「連続性を重視」「子どもの自主性・主体性」に新たな視点「教師の指導・援助の工夫」を加え、実施してきた。</p> <p>○ICTの利活用にあたっては、県指定の情報モラル教育への研究を通して、デジタル・シティズンシップ教育に関する講演や授業実践を実施することができた。</p> <p>○就学支援・学校給食費補助事業においては、準要保護就学援助について、申請のあった保護者から各家庭の状況を丁寧に聞き取り、適切に認定をすることができた。</p> <p>●学習指導要領の目指す園児・児童・生徒の育成に向け、地域と一緒に子どもの育ちを支える大玉村の教育の良さをさらに生かすとともに、幼・小・中の円滑な接続を図る交流活動・研修会等の充実を図る。</p> <p>●全国学力学習状況調査やふくしま学力調査から授業で取り組んだことが結果となって反映されていない状況にあり、特に基礎学力の定着に課題があり、授業において学習内容を確認し、定着を図る時間が必要である。</p> <p>●ICT活用においても、授業での活用が小・中学校ともに全国・県平均を下回っており、ICTの積極的な活用が求められている。</p>

<p>評 価</p>	<p>《評価する点》</p> <p>○今年度も3回のオープンスクールが行われ、各園学校に特化した熟議が行われた。今年も中学生がコミュニティスクール委員会に参加し、中学生ならではの柔軟な発想で意見を交わすことができた。また、小学校においては、事前に小学生のアンケートをとり、小学生の意見として熟議の内容に反映するなど工夫が見られた。</p> <p>○家庭教育支援チーム員の活動も2年目を迎え、保護者や地域、関連団体等に認知されてきた。中でも保護者の悩みや相談をQRコードでお寄せいただく内容については、課内で解決するものから、学校、健康福祉課、教育総務課等と連携を図りながら解決に向けての話し合いが行われるなど、保護者の相談窓口を担うことができた。</p> <p>○読書活動推進事業においては、今年度は学校司書、小学校教諭、ふるさとホール館長、ICT支援員の協力のもと、子ども司書養成講座を開催し、読書だけではなく、学校司書の役割について、楽しく学ぶことができた。</p> <p>○社会体育関係団体支援事業については、持続的なスポーツコミュニティ形成の促進をするなかで、「おおたまコミュニティフェスタ」を実施し、スポーツを絡めた様々な催しができた。</p> <p>○あだたら健康マラソンにおいては、昨年の反省点、改善点をを反映させ、スムーズな運営をすることができた。</p> <p>○文化財保護事業については、村民や文化財調査委員、文化財保護審議員らの多くの方の指導、助言、協力を得ながら文化財指定へ向けて調査・研究ができた。</p> <p>○あだたらふるさとホール運営事業については、収蔵資料の把握・整理を進めるとともに、台帳の整理、廃棄等予定通り進めることができた。</p> <p>●コミュニティ・スクール委員会の活動状況が保護者や地域の住民にあまり知られていない部分がある。コミュニティ・スクール委員会の便りや地域学校協働本部便りを通して、活動状況を示しているが、おおたま・オータム・フェスタなどの保護者ボランティアへの参加が少なかった。来年度はオープンスクールの各園学校に特化した熟議に保護者の参加を促し、家庭教育力の向上に努める。</p> <p>●家庭教育支援については、コミュニティ・スクール委員の方からの提案もあり、駄菓子屋子どもの居場所「ナカホーム」を活用した、保護者同士の交流の場づくりの開設に向けて、コミュニティ・スクール委員や地域住民と新たな拠点づくりを目指していきたい。</p> <p>●ブックスタートから、ふるさとホールの場所や利用の仕方等分からない家庭が多いことが分かった。周知の仕方を工夫し、親子での施設利用やイベント参加の推進を図っていきたい。</p> <p>●社会体育関係団体支援事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、数年間各種大会やスポーツ活動等が中止、縮小となっていたことで、住民のスポーツ離れが著しく、その人たちのスポーツ活動への参画を推進していくため、スポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツクラブと協力し、スポーツ人口の増加に努めたい。</p> <p>●文化財保護事業については、村民の方、有識者をはじめ、多くの方と関わりを持ちながら、「おおたま遺産」の保存・継承する環境を整えていきたい。</p>
------------	--

事務事業点検評価シート

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】				
施策目標	おおたま学園構想のより一層の推進				
主要施策	幼・小・中一貫的教育推進事業				
趣旨・概要	<p>○幼稚園教育要領、学習指導要領の理念を踏まえ、未来を担う子どもたち一人一人の資質・能力を育む教育活動の具現を図るため、幼稚園・小・中学校のつながりを重視したカリキュラムを作成し、実施改善を行う。</p> <p>○幼・小・中の園児・児童・生徒及び教職員の交流を積極的に推進し、日々成長し続ける子どもたちを真ん中において校種を越えた学び合いを大切にしてい。とりわけ、教職員の交流にかかわって、おおたま学園各種委員会の主体的な授業研究や研修を積極的に支援する。</p>				
達成規準	<p>○学年間、学校段階間のつながりや教科等を横断する視点を大切にしながら、教育課程の編成、実施、改善が行われている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ、園児・児童・生徒相互及び教員相互の積極的な交流が行われている。</p> <p>○各委員会及びオープンスクールにおいて主体的で、課題意識をもった運営がなされている。</p> <p>○教員一人一人がおおたま学園及び各校園の諸課題の解決に努め、児童・生徒の主体的・対話的・探究的な深い学びが実現している。</p>				
評価	《評価する点》				
	<p>○今年度はGIGAスクール事業において重視されている「デジタル・シチズンシップ研修会・授業公開」や外国語教育の充実に向け小中学校教員が集まり「大玉村外国語教育研修会」を計画するなど、おおたま学園の課題解決に向けた取組が積極的に実施された。</p> <p>○昨年度から新しい6つの委員会に再編されたが、各委員会では4月の全体会での話し合いを基に年間計画を作成し、連絡を取り合いながらスムーズに各事業が実施された。</p>				
	《改善点(改善策)》				
	<p>●学習指導要領の目指す園児・児童・生徒の育成に向け、地域と一緒に子どもの育ちを支える大玉村の教育のよさをさらに生かすとともに、幼・小・中の円滑な接続を図る交流活動・研修等の充実を図る。</p> <p>●おおたま学園各委員会の新組織での活動内容の見直しと改善を図る。</p>				
達成状況	A: 十分達成	年度末の 展開度	A: 大きく展開	方向性	拡充・発展

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】				
施策目標	おおたま学園構想のより一層の推進				
主要施策	幼稚園教育の充実				
趣旨・概要	<p>○3年保育実施の6年目にあたり、非認知能力を育み、幼稚園と小学校をつなぐ実行性のあるカリキュラムの編成・実施・改善に努め、幼児教育の充実を図る。</p> <p>○保護者意識調査を実施し、幼稚園と家庭や地域等が連携・協力して一人一人の育ちを大切に教育を行う。</p>				
達成規準	<p>○「大玉村 幼稚園教育指導の重点」を基に教育課程を編成し、実践、評価、改善を図り、教育活動の質の向上が図られている。</p> <p>○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「幼保小架け橋プログラム」を踏まえ、目指す姿を明らかにして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて指導が行われている。</p> <p>○幼稚園教育から小学校教育への円滑な接続を図るよう努めている。</p> <p>○保護者意識調査等により幼児の成長を見取り、一人一人を大切に指導・援助に努め、自立の基礎や自主性等の非認知能力が育っている。</p>				
評価	《評価する点》				
	<p>○「幼小交流打ち合わせ会」を実施し、交流の目的、育成したい姿について話し合いを行った。今年度は、これまで重視してきた3つの視点「直接的・間接的交流の工夫」「連続性を重視」「子どもの自主性・主体性」に、新たな視点「教師の指導・援助の工夫」を加え実施してきた。教員間の連絡調整がより円滑になり、子どもたちの発想を生かし、これまで見られなかった3学期の交流やグループでの分散型・継続型交流などが工夫されてきている。</p> <p>○「わくわくthinkingタイム」の研修会をこれまでは年長担当で実施していたが、園の希望により全教員を対象に実施した。年4回年間計画に位置付け計画的に実施することができた。絵本を使ったり、ロールプレイを行ったりするなどの工夫により、園児が主体的に考え主張する姿が見られた。</p> <p>○両園で「保護者意識調査」を実施した。両園とも全国値と比べて、「園に安心できる雰囲気がある」「先生の言葉かけが温かい」「自由に遊べる場所がある」「地域の人材や環境を保育に生かしている」等全て高い結果となっている。この調査を活用し、保護者個別面談も実施され、家庭と協力し子ども一人ひとりの育ちを大切に援助が行われている。これまで3.0未満の項目「家族は、読み聞かせをしている」は昨年に引き続き、3.0を上回ってきている。「分からないことについて質問している」の項目も年々向上してきており、言語環境が改善してきていることが窺える。</p>				
	《改善点(改善策)》				
	<p>●非認知能力の育成に向け、主体的な遊びや活動を通して、考えたり分かたりすることの楽しさや喜びを十分体験する園活動となるよう教育課程の改善を図る。</p> <p>●「わくわくthinkingタイム」の年間計画の見直しを行い、非認知能力の育成に向け指導・援助をさらに充実する。</p> <p>●「保護者意識調査」を活用し、一人ひとりの育ちを大切に援助を工夫するとともに、さらに保護者と共に育む教育の充実を図る。</p>				
達成状況	A: 十分達成	年度末の 展開度	A: 大きく展開	方向性	拡充・発展

事務事業点検評価シート

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】				
施策目標	個を伸ばし、確かな学力を育む教育活動の充実				
主要施策	学力向上推進事業				
趣旨・概要	<p>○おおたま学園の組織を活かし、幼・小・中の連携を軸にした学びの連続性を意識した学習指導の改善をするための指導や研修の充実を図る。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた個別最適な学び、協働的な学び、探求的な学びの学習指導を改善していくために必要な力や教育課程を横断的に捉えたカリキュラムマネジメントに必要な力等を育む研修の充実を図る。</p> <p>○小学校に配置の外国語教育推進リーダーや地域人材を含めた外部講師等を積極的に活用し、子ども達の豊かな学びを支える。また、組織的な研修の進め方や、ICT活用を含めたより効果的な授業研究の方法の周知等、校内における研修体制が充実するよう支援する。</p> <p>○ふくしま学力調査及び全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善の視点を明確にし、校内研修に活かすことができるよう支援する。</p> <p>○オープンスクールにおいて、学校教育指導の重点を視点に据えた共通実践が図られるよう支援する。また、異校種、異教科からの多面的な視点からの意見等により、より充実した研究協議会になるよう働きかけ、授業の質的改善や指導能力の向上を図る。</p>				
達成規準	<p>○オープンスクールを中心に授業参観・研究協議・専門的な指導助言を通して、主体的・対話的で深い学びの具現化に向けた個別最適な学び、協働的な学びが一体的に行われている。</p> <p>○子どもたちが課題解決に向けて、見通しをもち、主体的に自力解決に取り組むとともに、他の考えを興味をもって聞いたり、自分の考えを積極的に相手に伝えたりすることを通して、学習指導要領に示されている資質や能力が身につけている。</p> <p>○ふくしまの「授業スタンダード」を活用するとともに、学校教育指導の重点である「ねらいを明確にした単元構想・授業構想」「発問の工夫」「必然性のある話し合い活動」「教師のコーディネート」「まとめや振り返りの充実」の5項目を意識した取組が推進されている。</p> <p>○ふくしま学力調査や全国学力・学習状況調査の結果をもとに、児童・生徒の実態をふまえながら、各校が授業改善の視点を明確にもち、必要な資質や能力を身につける具体的な取組が推進されている。</p>				
評価	《評価する点》				
	<p>○ オープンスクールにおいて、「ねらいを明確にした単元構想・授業構想」「発問の工夫」「必然性のある話し合い活動」「教師のコーディネート」「まとめや振り返りの工夫」を意識した授業が展開できるように連携を図りながら実践できた。特に、「まとめや振り返り」の時間をしっかり確保し、深い学びになるよう手立てが工夫されていた。指導受けたことを教頭・副園長連絡会等で共有化を図り、授業改善の視点を明確に示すことができた。</p> <p>○ 全国・学力学習調査やふくしま学力調査の結果を細かく分析し、本村の学力について不足しているものをしっかりと提示した。情意面や認知面での実態をもとに、今後の指導の方向性や共通に認識しておくものについて、村校長会、教頭・副園長連絡会、授業研究会等で共有できたり、CS委員会にも提示し、学校評価に生かしたり、次年度の教育課程編成のための資料として活用することができた。</p> <p>○ 各校、学力向上グランドデザインを作成し、現職教育に取り入れながら日々授業研究に取り組んでいた。また、おおたま学園の保育授業・学習習慣連携推進委員会を中心に、家庭学習からの学力向上へのアプローチをしたり、読書活動推進委員会を中心に読書における読解力の向上に努めたり、人権教育推進委員会を中心にメディアコントロール実施したりするなど各委員会がそれぞれに学力向上の基盤である学級生活や家庭生活から改善していこうとする様子が見られた。</p>				
	《改善点(改善策)》				
<p>● 全国学力学習状況調査やふくしま学力調査から授業で取り組んだことが結果となって反映されてない状況がある。特に、基礎学力の定着に課題があり、授業において学習内容を確認し、定着を図る時間が必要である。また、ICTの活用について、授業での活用が小・中学校ともに全国、県平均を下回っており、ICTの積極的な活用が求められている。来年度はその定着の時間をAIDリルなどを活用し、その子にあった学力で進められるように授業改善を求めていく。</p>					
達成状況	B:概ね達成	年度末の 展開度	B:概ね展開	方向性	継続

事務事業点検評価シート

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】				
施策目標	個を伸ばし、確かな学力を育む教育活動の充実				
主要施策	ICT活用推進事業				
趣旨・概要	<p>○教職員の多忙化解消による児童生徒と向き合う時間の確保と、児童生徒情報の共有によるきめ細やかな指導の充実のため、統合型校務支援システムの積極的な運用を図る。</p> <p>○GIGAスクール構想に則り、児童生徒1人1台端末の有効活用を図るために、児童生徒と教職員に対して、ICTに関する支援と研修に取り組み、デジタル・シティズンシップ教育(※)を推進する。</p>				
達成規準	<p>○統合型校務支援システムを運用することにより、児童生徒への指導の充実と教職員の多忙化解消に寄与している。</p> <p>○児童生徒1人1台の端末を活用することで、児童生徒には主体的・対話的で深い学びを実現し、情報活用能力の育成と新しい情報モラル(デジタル・シティズンシップ)の向上を促している。また、ICTに関する支援と研修を行うことで、教職員は授業や校務でICTを有効活用している。</p>				
評 価	《評価する点》				
	<p>○教職員の多忙化解消による児童生徒と向き合う時間の確保と、児童生徒情報の共有によるきめ細やかな指導の充実のため、「児童生徒の出席管理や健康管理面、通信票作成、卒業・進学関係事務」等については、統合型校務支援システムの日常的な運用を図ることができた。</p> <p>○GIGAスクール構想に則り、児童生徒1人1台端末の有効活用を図るために、ネットワークや端末の保守管理に努めながら、児童生徒と教職員に対してICTに関する支援と研修に取り組むことができた。</p> <p>○県指定の情報モラル教育への研究を通して、デジタル・シティズンシップ教育に関する講演や授業実践を実施することができたため、本村におけるデジタル・シティズンシップ教育元年とすることができた。</p>				
	《改善点(改善策)》				
	<p>●「いつでも受講できる25の研修」を提案して、ニーズに合った研修を準備してきたものの、Googleformsから研修申込をする先生は10名ほどに留まり、運営面での課題が浮き彫りとなった。口頭による研修の依頼はあったため、今後は、より先生方のニーズに沿った研修と申し込み方法を工夫する必要がある。</p> <p>●今後は各校ごとに、GIGAスクール事業やデジタル・シティズンシップ教育への取り組みがさらに進められるためにも、各校の取り組みが共有化できるような組織が必要と思われる。そこで次年度は、各校のICT教育担当者が集まって学期1回程度の会議を計画したい。</p> <p>●「デジタル・シティズンシップ教育の推進」が教育委員会の目標の一つとなったので、今後はCSIにおける取り組みも深くして、学校教育のみならず、地域住民に対しても「デジタル・シティズンシップの啓発」を進めていく必要がある。</p> <p>●校務支援システムを使って「教育計画作成や週案・月案作成」を行いたいものの、現状ではシステム仕様に課題が多く全く進んでいない。使える仕様となるよう県に働きかけしていく必要がある。</p>				
達成状況	A: 十分達成	年度末の 展開度	A: 大きく展開	方向性	拡充・発展

基本施策	幼・小・中が一貫した教育の推進【響育】				
施策目標	安心して学べる教育環境づくり				
主要施策	就学支援事業・学校給食費補助事業				
趣旨・概要	<p>○ 経済的な理由等により就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、学校生活に必要な費用(給食費、学用品費等)の一部を支給することにより、児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう援助する。</p> <p>○ 関係機関と連携を図り、援助が必要であっても申請がなされない保護者を把握し、適切に支援する。</p> <p>○ 児童生徒の保護者の経済的負担を軽減することで安心して子育てができるよう補助を行う。</p>				
達成規準	<p>○継続して支援の必要な保護者、真に支援を必要とする保護者のいずれに対しても適切に支援が行われている。</p> <p>○保護者に対し給食費の補助を行うことにより、経済的負担の軽減が図られている。</p>				
評 価	《評価する点》				
	<p>○準要保護就学援助事業について、申請のあった保護者から各家庭の状況を丁寧に聞き取り、適切に認定をすることができた。また、支給時には学校と連携し、給食費等の未納金がある保護者と連絡を取りながら充当の手続きを行うなど、適切に支給し支援することができた。</p> <p>○非課税世帯の給食費補助について、認定申請と交付申請を別に行うことにより、スムーズな事務処理ができた。</p>				
	《改善点(改善策)》				
	<p>●準要保護認定世帯について、世帯数及び児童数ともに昨年より増加している。そのため資料作成などの負担が大きくなり、民生委員や学校長の意見書作成や審議する教育委員の負担も大きくなっている。他市町村の認定方法などを参考にしながら見直しを行い、負担を軽減できるよう改善していきたい。</p>				
達成状況	A: 十分達成	年度末の 展開度	B: 概ね展開	方向性	継続

事務事業点検評価シート

基本施策	地域ぐるみの学びのむらづくり【共育】				
施策目標	「地域と共に歩む学校づくり」の推進				
主要施策	コミュニティ・スクール推進事業				
趣旨・概要	<p>○おおたま学園を中心とした幼小中の連携(縦のつながり)を強化するとともに、家庭・地域・学校が一体となった「地域と共に歩む学校」「学校を核とした地域づくり」(横のつながり)を一層強化し、子どもたちの確かで豊かな学びを支える環境づくりを行う。</p> <p>○コミュニティ・スクールに関する啓発活動や組織体制、活動内容の充実に引き続き取り組み、子ども達を真ん中にした教育活動ができるよう運営を行う。また、世代を超えた交わりをより一層推進し、共に学び合う環境を作る。</p>				
達成規準	<p>○コミュニティ・スクール委員自らが主体的に委員会を運営し、互いの英知を結集し、子どもたちの豊かな学びを支えるとともに、子ども達と関わり合いながら地域に貢献している姿を示している。</p> <p>○コミュニティ・スクール委員会やオープンスクールへの参加を通して、各校園の基本方針及び子どもたちの学びの姿や教育課題を共有し、その解決に向けて具体的な取組を行っている。</p> <p>○コミュニティ・スクールに関する啓発活動を積極的に行い、おおたま・オータム・フェスタ及びおおたまコミュニティ広場などに保護者、地域住民が参画し、学校・家庭・地域が一体となった教育活動が推進されている。</p>				
評 価	<p>《評価する点》</p> <p>○ 今年度は、10名のCS委員が替わり、9回のCS委員会を予定通り実行することができた。熟議においては、各園学校の課題等の解決に向けて様々な意見が交換され、学校、家庭、地域が一体となって教育活動に取り組むための話し合いを行うことができた。また、小中学生がボランティア活動に取り組むなど地域に貢献する活動が見られるようになり、子どもたち、地域の方々の相乗効果が見られるようになった。</p> <p>○ 今年度も3回のオープンスクールが行われ、各園学校に特化した熟議が行われた。今年も中学生がCS委員会に参加し、中学生ならではの柔軟な発想で意見を交わすことができた。また、小学校においては事前に小学生のアンケートをとり、小学生の意見として熟議の内容に反映するなど工夫が見られた。さらに、CS委員がこのオープンスクールに参加することによって学校を知る良い機会となり、学校評価委員としての役割も果たした。</p> <p>○ おおたま・オータム・フェスタを実施することができ、子どもたちは豊かな体験活動を行った。異学年交流は上級生が下級生の面倒を見るなど交流を通して下級生が上級生に対して感謝の気持ちを持ったり、上級生は褒められることで自信を持ち、自己肯定感が高まったりするなど人間関係の醸成や地域への愛着が増した。</p> <p>○ 今年度はCS委員会とは別に学校関係者評価研修会を実施し、CS委員の研修会を行った。</p>				
	<p>《改善点(改善策)》</p> <p>●CS委員会の活動状況が保護者や地域の住民にあまり知られていない部分がある。CS委員会の便りや地域学校協働本部便りを通して活動状況を示しているが、おおたま・オータム・フェスタなどの保護者ボランティアへの参加が少なかった。来年度はオープンスクールの各園学校に特化した熟議に保護者の参加を促し、家庭教育力の向上に努める。</p> <p>●おおたま・オータム・フェスタの開催で、今までになかった雨天開催となってしまう、準備や取組に大きな影響が出た。当日の開催判断を保護者に伝えることや雨天時代替え案を準備するなど様々な課題が浮き彫りになった。また、教職員に対しても、一部に負担がかかってしまったり、活動の目的やねらいが周知されておらず、何のためにいを行うのか、どのような効果があるのか理解しないまま活動を行った教職員もいた。来年度はおおたま学園全体会において活動の目的やねらいを十分に話し合う時間を設け、納得のいくように説明してから実施する。また、平日の分散開催に変更し、それぞれの部で予備日を設け、できるだけ開催できるように設定する。また、保護者ボランティアのさらなる要請を行い、保護者の参加を促す。</p>				
達成状況	A: 十分達成	年度末の 展開度	A: 大きく展開	方向性	継続

事務事業点検評価シート

基本施策	地域ぐるみの学びのむらづくり【共育】				
施策目標	「地域と共に歩む学校づくり」の推進				
主要施策	地域学校協働活動事業(家庭教育支援事業)				
趣旨・概要	核家族化や共稼ぎ家庭など、地域とのつながりが少なくなっている現在、子育ての悩みや不安を抱えた家族が増加し、地域から孤立、自ら相談する場へのアクセスが困難な家庭などを支援するため、地域全体では家庭教育支援の基盤の仕組みづくりが求められている。				
達成規準	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士が話し合え、くつろげる場所づくりの提供ができています。 ・今ある事業を活用し、親子が一緒に行える行事が実施できています。 ・村内の関連組織・団体(ゆめこじ、さくらカフェ、保健センター、保育所、幼稚園、小・中学校等)との連携を取りながら共同開催や情報(意見)交換を密にし、保護者の悩みや相談について多方面より周知を図れている。 				
評 価	《評価する点》				
	<p>○家庭教育支援チーム員の活動も2年目を迎え、保護者や地域、関連団体等に認知されてきた。中でも保護者の悩みや相談をQRコードでお寄せいただく内容については、課内で解決するものから、学校、健康福祉課、教育総務課等と連携を図りながら解決に向けての話し合いが行われるなど、保護者の相談窓口を担うことができた。</p> <p>○今年度は村で行っている全ての乳幼児健診(保健センター)へ出向き、子どもと保護者を対象とした「ブックスタート」、「おゆずり会」も、おはなしボランティア団体並びにチーム員と共に進めることができた。</p>				
評 価	《改善点(改善策)》				
	<ul style="list-style-type: none"> ●次年度(活動3年目)の課題としては、家庭教育支援活動についても、周知していく中で、昨年11月に家庭教育支援チーム員の1名増員はしたものの、各小学校の授業参観や個別懇談のが同日となった場合、チーム員が足りず、おゆずり会などが無人開催などがあり、もう1名程度の増員を図りたい。(子育て経験者やおはなしボランティア会員、地域ボランティア会員より選定予定) ●おおたま学園コミュニティ・スクール委員さんからのご提案もあり、駄菓子屋子どもの居場所「nakahome(ナカホーム)」を活用した、保護者同士の交流の場づくりの開設にむけて、CS委員や地域住民と新たな拠点づくりを目指していきたい。 				
達成状況	A: 十分達成	年度末の 展開度	A: 大きく展開	方向性	継続

基本施策	地域ぐるみの学びのむらづくり【共育】				
施策目標	読書活動の推進				
主要施策	読書活動推進事業				
趣旨・概要	○読書に親しむ機会の充実を図るとともに、おはなし会の開催や図書ボランティア育成など、子どもの読書活動推進計画に基づく活動を推進し、本に親しむ機会の充実と読書週間の定着を図る。				
達成規準	<ul style="list-style-type: none"> ○「おはなし会」を活用して、多くの児童・生徒とその保護者が多くの本に触れて、親しんでいる。 ○学校司書とともに連携し、学校図書館と公共図書館の図書を活用している。 ○令和4年度ふるさとホール図書利用者8905冊貸出を、令和5年度には借用量10%増の10000冊にする。 				
評 価	《評価する点》				
	<p>○ブックスタートではふるさとホールの利用の仕方やイベント等の紹介をし周知の機会を広げることができた。</p> <p>○ふるさとホール借用量が1月時点で、9,670冊。今年度中に令和4年度10%増の10,000冊超えが見込まれる。年度別累計貸出数データ等を見ると、全体的に貸出数が伸び、読書への関心が高まっている事がうかがえる。</p> <p>○今年度は学校司書、小学校教諭(図画工作)、ふるさとホール館長、ICT支援員の協力のもと子ども司書養成講座を開いた。7名が受講を認定した。また、年間を通しておはなしボランティアや読み聞かせボランティアを対象に研修を呼びかけていくことができた。自分自身も学びの場となった。</p>				
評 価	《改善点(改善策)》				
	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども司書養成講座で認定者がいたが、活躍できる場面設定や小学校との共有ができていなかった。次年も継続をしていきたいが、開催日数や講座終了後活躍の場などを計画に入れるようにする必要がある。 ●ブックスタートから、ふるさとホールの場所や利用の仕方等分からない家庭が多い事が分かった。周知の仕方を工夫し親子で施設を利用したり、イベントに参加できるようにしていきたい。 				
達成状況	B: 概ね達成	年度末の展 開度	B: 概ね展開	方向性	継続

事務事業点検評価シート

基本施策	子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり【強育】				
施策目標	健康な体づくりの推進				
主要施策	健康教育・保健事業の充実と食育の推進				
趣旨・概要	○学校健診、就学時健康診断、教職員健康診断、歯みがき教室の事務を遺漏なく進める。 ○幼稚園・小学校でのフッ化物洗口事業や歯みがき教室を通して園児・児童の口腔衛生の健康に努める。 ○各校園の養護教諭と連携を図り、園児・児童・生徒・教職員の健康維持に努める。				
達成規準	○適切な時期に各種健康診断等の事務を進め、実際の健診(検診)等がスムーズに行われている。 ○健康福祉課と連携をとりながら、フッ化物洗口事業を進め、大玉村に住む子どもたちのむし歯有病率の減少が図られている。 ○歯みがき教室を通して、むし歯予防のための正しい知識を深め、むし歯に対する意識改善が行われている。				
評価	《評価する点》 ○感染症対策を講じながら事業計画に基づき各種健康診断等を実施することができた。 ○各小学校実施計画に基づき、感染症対策を行いながらフッ化物洗口を実施することができた。 ○今年度より歯みがき教室では、実技指導についても講話と合わせて実施することができ、より歯の健康に対する知識や理解を深めることができた。				
	《改善点(改善策)》 ●歯みがき教室にて各関係団体との情報共有が不足しており、十分な準備ができていなかったところがあった。各団体の状況を確認しながらより細かな情報交換を行えるよう体制を整える必要があると感じた。 ●今年度の健康診断の結果、歯科教育・フッ化物洗口事業などを活かして、今まで以上に園児・児童・生徒の健康を維持できるように努める。				
達成状況	A: 十分達成	年度末の展開度	A: 大きく展開	方向性	継続

基本施策	子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり【強育】				
施策目標	スポーツ活動の促進				
主要施策	社会体育関係団体支援事業				
趣旨・概要	○「部活動の地域移行」に備えた体制を整備する。また、将来を見据えた持続的なスポーツコミュニティの在り方を検討する。				
達成規準	○部活動の地域移行におけるモデルケースの構築と評価を行い、全体への反映へ備えた準備ができています。 ○指導者協議会(仮称)を組織することで、部活動の地域移行に対する共通認識や情報共有ができています。				
評価	《評価する点》 ○部活動の地域移行について、中学校長との協議を行い、ある程度の進め方を決めることができた。 ○積極的に地域移行に取り組む団体(野球)に対して、柔軟な対応ができた。 ○持続的なスポーツコミュニティ形成の促進をする中で、昨年に引き続き「おおたまコミュニティフェスタ」を実施し、スポーツを絡めた様々な催しが行えた。				
	《改善点(改善策)》 ●部活動の地域移行に関する年間事業計画をしっかりと定める必要があった。「指導者協議会(仮称)の設置」という計画自体が確定されたものではなく、担当ベースであったことが問題であった。来年度へ向け、事業計画をする段階で部内全体を巻き込みながら目標設定ができるよう改善していく。 ●持続的なスポーツコミュニティ形成を行う上で、来年度に重要となるのが「おおたまコミュニティフェスタ」となる。村民スポーツフェスティバル等のイベントを集約する考えが現時点であるため、多くの方々に親しまれるようなイベントにできるよう、内容のグレードアップを図っていく。				
達成状況	C: やや不十分	年度末の展開度	B: 概ね展開	方向性	継続

事務事業点検評価シート

基本施策	子どもの健やかな体づくりと地域ぐるみのスポーツのむらづくり【強育】				
施策目標	スポーツ活動の推進				
主要施策	社会体育関連団体支援事業				
趣旨・概要	○各種社会体育団体の活動支援を通じて、スポーツ団体の活性化を図る。また、健康ポイント該当事業へのポイントを交付し、健康の推進を図る。				
達成規準	○スポーツ協会の主管事業である「あだたら健康マラソン大会」の円滑な運営とスムーズな進行及び事故なく安全な開催ができています。 ○様々な年代の方々が参加し、村民が体力づくり・健康づくりをする場となっている。				
評 価	《評価する点》				
	○新型コロナウイルス感染症が第5類に分類され、コロナ前の状況で各種大会等を開催することができた。 ○あだたら健康マラソンについて、昨年の反省点、実行委員会、担当者会議にて提案された改善案を大会当日に実践することができた。				
	《改善点(改善策)》				
	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症により、数年間各種大会やスポーツ活動等が中止、縮小になっていたことで、住民のスポーツ離れが著しく、その人たちのスポーツ活動への参画を推進していくため、スポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツクラブと協力しあい、スポーツ人口が増加する事業展開をする。 ●あだたら健康マラソン事業着手が遅れたため、次年度はスケジュール管理を徹底してスムーズな事業実施をしなければならない。また、今年度の大会後に出た反省点を踏まえ次回大会に臨む。 				
達成状況	B: 概ね達成	年度末の展開度	B: 概ね展開	方向性	継続

基本施策	ふるさと文化の振興【郷育】				
施策目標	歴史文化の保存と継承・活用				
主要施策	文化財保護事業				
趣旨・概要	○大玉村歴史文化基本構想において、本村に存在する貴重な歴史文化、伝統文化等の指定・未指定の文化財を「おおたま遺産」として捉えており、そのうち未指定の「おおたま遺産」の発掘・調査・指定を推進する。				
達成規準	○後世へ「おおたま遺産」の保存・継承を推進し、住民の郷土意識を醸成することができている。 ○ふるさとホール収蔵資料の整理が進んでいる。 ○貴重な「おおたま遺産」の滅出や散逸を防ぐことができている。				
評 価	《評価する点》				
	○村民の方、文化財調査委員、文化財保護審議員、県立博物館学芸員相田優さん、元東京家政大学教授 若林繁さんら多くの方の指導・助言・協力を得ながら文化財指定へ向けて調査・研究ができた。また、住民の郷土意識を醸成に寄与できた。				
	《改善点(改善策)》				
	<ul style="list-style-type: none"> ●村民の方、有識者はじめ多くの方とかかわりを持ちながら、「おおたま遺産」の保存・継承する環境を整えていきたい。 ●「おおたま遺産」の保存・継承、「おおたま遺産」の新発見を通じて住民の郷土意識を醸成できる環境を整えていきたい。 				
達成状況	B: 概ね達成	年度末の展開度	B: 概ね展開	方向性	継続

事務事業点検評価シート

基本施策	ふるさと文化の振興【郷育】				
施策目標	歴史文化の保存と継承・活用				
主要施策	あだたらふるさとホール運営事業				
趣旨・概要	<p>○郷土の歴史及び民俗等に関する資料を収集、保管、展示し、村民の教養の向上と文化の振興を図るため、村の歴史や文化に係る企画展や、時節や社会に添ったテーマで特別展を開催する。</p> <p>○あだたらふるさとホールの機能の維持・向上を図るとともに、野内与吉氏の功績展示を行う。</p>				
達成規準	<p>○ふるさとホール収蔵資料の把握・整理が進んでいる。</p> <p>○設置2年目の「マチュピチュ村を創った野内与吉」コーナーにより、さらに村内外に与吉の功績を、広めることができている。</p>				
評 価	<p>《評価する点》</p> <p>○収蔵資料の把握・整理が進んでいる。展示室、収蔵庫2階については、台帳への整理、廃棄等予定通り進めることができた。</p> <p>○「マチュピチュ村を創った野内与吉」コーナーについては、広報おたまのふるさとホール通信により広報することができた。</p> <p>○児童の見学受入については、学校の要望を伺い、学習のねらいに沿った支援ができた。</p> <p>○ふるさと歴史講演会では、本村の歴史に深く関わる内容が取り上げられ、充実した講演会となった。</p>				
	<p>《改善点(改善策)》</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資料整理で分かった重複資料の取り扱いや廃棄処分などの手順を明確にし、確実に実施する。 ●資料の保管方法について、最善の方法を模索、検討する。 ●ふるさとホール通信を通して、与吉コーナーを含め事業の広報を積極的に行う。 ●講演会のテーマと講師の選定は、計画的に余裕を持って進めるとともに、参加を広く村内に呼びかける。 				
	達成状況	B:概ね達成	年度末の展 開度	B:概ね展開	方向性